

学校教育目標		豊かな心を持ち、自ら学ぶ力と持続可能な社会を創る生徒の育成 (校区の教育目標：子どもの笑顔があふれる幸せな学校)		重点目標	目標を持ち、学んだことを活かし、協働して課題解決に臨む生徒の育成 (学習意欲、思考・判断・表現力)	① 思いやりと感謝の心を持ち、互いに支え合う生徒 ② 真剣に学び続け、どんな困難にも挑戦し、自己の生き方に対し、志や目標 (知・徳・体) をもって知識・技能を習得する生徒 ③ 激しく変化する不透明な情勢に対応し、協働して持続可能な社会をつくる生徒	
評価計画と自己評価					学校関係者評価		改善計画
重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	めざす生徒の姿 (成果指標)	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策
思いやりと感謝の心を持ち、互いに支え合う生徒	○ 多様な意見を大切にされた道徳の授業を行う。	○ 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.6 結果値：3.6	3	○道徳の授業に限らず、各教科の授業でも友達との意見の交流活動では活発な話し合いが行われていた。 ○総合的な学習の時間を中心に、福祉や地域、進路のことについて課題解決的に学習をすすめることができた。 ○班活動や委員会の取組、学校行事など、お互いに協力して取り組む姿が随所に見られた。 △自己表現が苦手な生徒もいるため、ICTを活用するなど発表方法の工夫が必要である。	A	・学校の評価は適切である。 ・授業中の生徒の態度が静かで落ち着いていた。 ・本校区で一番育みたい心である「支え合うことの大切さ」に関する話を、様々な場面で継続して伝えてほしい。 ・思いやりと感謝の心を持ち、意見を大切にされた道徳の授業で活発な話し合いができてきているようである。 ・日常的に松原中の生徒は、仲良く協力することができている。 ・道徳の授業に関しては、様々な方面の方を迎えての出前授業のようなものも活用してはどうか。 ・保護者、家庭との連携を強化できる取組を進めていきたい。	・援助希求力を育てることができるように、困っている時に適切に助けを求めることができる環境や発信する場や方法を整えていく ・感謝や思いやりの心を育てていくことができるように、道徳や教科の授業での話し合いを充実させていく。 ・個人の意見を出しやすくすることができるように、ICTを活用した匿名性のある発信方法を工夫していく。
	○ 協働して課題解決を行うことができる授業 (教科、総合的な学習) を実施する。	○ みんなで協力しあうことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.4 結果値：3.4	3				
	○ 支え合うことの大切さを感じることができるような話を、朝の会や帰りの会で実施する。	○ 困っている人を助けることができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.6 結果値：3.6	3				
真剣に学び続け、どんな困難にも挑戦し、自己の生き方に対し、志や目標 (知・徳・体) をもって知識・技能を習得する生徒	○ 単元を貫く課題を設定した授業を展開する。	○ 課題に対して、自ら考えて取り組むことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.2 結果値：3.2	3	○単元の流れを考えながらの授業を展開することができた。 ○ICTを活用した授業が増えたことで、作業時間を短縮したり、レポート作成を共同で進めやすくなったりしてきた。	A	・学校の評価は適切である。 ・家庭学習に課題がある生徒は、量と質の面から改善を図る必要がある。生徒ができる内容を続けることが家庭学習の習慣化につながると考える。 ・松原ノート、生徒の実態に合わせて使い方を改善してあり、継続できているのは良かった。細く長く続けてほしい。 ・授業への積極的なICTの活用が進んでいると感じる。 ・これからの社会に求められる時間と将来の夢や目標を持っている生徒を導いていると感じられる。 ・進学、就職が最終目的ではなく、社会貢献ができるような人を育てる教育を望みます。	・生徒が学習の見通しを持って授業に取り組むことができるように、単元全体の流れを意識した授業展開に関する研修を実施していく。 ・何のために勉強するのかを学ぶことができるように、卒業生や社会人の方をGTとして招聘し、キャリア教育を充実させていく。 ・家庭学習の定着と質の充実を進めていくことができるように、学習内容に対する評価を行っていく。
	○ 松原ノートを活用して家庭学習に取り組む。	○ 学校の授業時間意外に家庭学習に励むことのできる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：2.6 結果値：2.7	4	○毎日1ページの松原ノートを地道に続けることができ、家庭学習時間の確保につながることができた。	A		
	○ 進学や就職、これからの社会に求められることを念頭においたキャリア教育を実施する。	○ 将来の夢や目標を持っている生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.0 結果値：3.0	3	△3年間を見通した系統的なキャリア教育を行うために、社会の実状に沿ったカリキュラムになるように見直していく必要がある。	A		
激しく変化する不透明な情勢に対応し、協働して持続可能な社会をつくる生徒	○ 学級運営の状況や課題を全教職員間で共有し、学年・学校として組織的に行う。	○ 学級のみならず協力して何かやり遂げ、うれしかった経験をもつ生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.6 結果値：3.6	3	○みんなのスポーツ大会や合唱発表会などの行事では、各学級、各学年の状況を職員間で情報交換しながら連携を密にして進めていき、生徒に達成感を持たせることができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・みんなのスポーツ大会、合唱発表会に関して、どちらも生徒が主体的に活動する素晴らしい発表会であった。 ・学校行事を参観した際の生徒達の充実感あふれる表情が印象的であった。 ・子ども達がみんなで協力することの良さを実感できている。 ・生徒が自分たちで考え、判断し、実行する機会をどれだけたくさん準備できるかが大切だと考える。「どんな学校なら来なくなるだろうか」と生徒自身に考えさせて実行してもらうように、子ども達を信用して任せてみるという姿勢も大人側には必要なかなと思う。 ・学級のみならず何かをやり遂げ、嬉しかった事や良かった経験を持てた事が良かったと思われる。	・生徒達の自治意識と主体的な行動力を高めていくことができるように、学校行事以外で、生徒が考え、判断し、実行していくことができる場を増やしていく。 ・担当職員の負担を軽減することができるように、複数人体制で担当することができるように、係分担の工夫を行う。 ・地域の方々、PTA、各小学校との連携を大切にしながら教育活動を進めていくことができるように、組織面の整備を進めていく。
	○ 授業において、生徒間で話し合う活動を計画的に実施する。	○ 授業中の話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えることができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.3 結果値：3.3	3	○話し合い活動において、ペアや班など編制を工夫して行うことで、自分の考えを伝え合う活動を、年間を通して仕組むことができた。 ○生徒会の専門委員会の再編を行うことで、生徒や職員の動きを整理して、各活動をスムーズに行うことができるようになった。 △生徒会の活動について、担当職員の負担が大きい場面があったため、さらに軽減・分散できるように努めていく必要がある。	A		
	○ 生徒会活動を積極的に支援し、自主的な実践力を高めることができるようにする。	○ 友だちの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.3 結果値：3.2	3		A		
いじめ防止	○ 定期的なアンケートの実施と丁寧な様相観察を実施する。	○ いじめに気づくことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.8 結果値：3.8	4	○定期的なアンケートや臨時のアンケートなどを行いながら、いじめの早期発見に努めることができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・いじめについて、教師がよく目を配り、早期発見に努めているので認知件数も多くなり、早期対応ができている。 ・初期の対応に力を入れてあるので、今後も続けてほしい。 ・SNSが発達している中で難しい問題ではあるが、未然防止の取組がきちんとされている。	・いじめの未然防止、早期発見・対応を進めていくことができるように、生活アンケート等で収集した情報を小学校やSC・SSWと共有し、必要であれば外部機関との連携を確実にやっていく体制をとる。
	○ いじめを認知した際は、いじめ対策委員会での情報共有のもとに組織的な対応を行う。	○ いじめが続くことを許さない生徒 ★ 認知したいじめの解消率：100% 結果値：100%	4	○担任を中心にSCやSSW、関係機関と連携して、いじめに対する早期対応、未然防止に努めることができた。	A		
不登校対策	○ 生徒の頑張りを捉え、積極的に生徒のことを褒める。	○ 自分の良いところに気づくことができる生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.0 結果値：3.0	3	○授業や行事のときだけでなく、清掃時間や休み時間など日頃のコミュニケーションの場面でも褒める機会を増やしていくことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・社会に出れば厳しい世界が待っている。それに「耐える力」を養うためにも、優しさと厳しさをバランス良く指導してほしい。 ・引き続き保護者との連絡を取り続けながら、「不登校になる原因」を見つける話し合いも必要だと思われる。 ・小学校と中学校とで情報を共有したり、SCやSSW等を活用したりできている。継続して取り組むことが大切である。	・生徒の自己肯定感を高めることができるように、教師の声かけや生徒間での認め合う活動を計画的に行う。 ・家庭との連携を充実させていくことができるように、学校での良い姿を積極的に家庭に保護者に伝える。
	○ 生徒の気持ちを理解し、相談にのり、生徒を励ます。	○ 学校への登校意欲をもつ生徒 ★ 生徒アンケート目標値：3.4 結果値：3.5	4	△遅刻が目立つ生徒もいるため、家庭との連携をさらに充実させていくことが必要である。	A		
働き方改革	① 定時退校日の設定、取組 (毎週水曜日) ② 部活動休養日の設定、取組 (毎週水曜日、土曜日・日曜日のうち1日以上、長期休暇中の一定期間、学校閉庁日) ③ 学校閉庁日、閉庁時間の設定、取組 (8月14日～16日・12月27日～1月3日、閉庁時間を20時、) ★ 実績目標値 ＜ ★前年度比8%削減 ・★超過勤務月平均4.5時間以内 ＞		3	○20時の閉庁時間を守った勤務ができた。 ○部活動休養日については全職員が意識して実施することができた。 △定時退校日は設定しているが、時期により実践することができないことがあった。 △行事等のスリム化をさらに進めていくことが必要である。	A	・学校の評価は適切である。 ・定時退校日については、職員の状況に応じて一週間の中で臨機応変に実践していければよいのではないかと考える。 ・部活動指導については以前より改善されていると思うが、外部指導者など学校だけでは解決できない課題も残っている。 ・効率よく工夫して生産性の向上に取り組まれていると感じる。 ・早期退庁を心がけて、無理されないように願っている。 ・労働者のメンタルヘルスへの影響が深刻化することを懸念する。	・時代に合わせた働き方を目指すことができるように、校内働き方改革委員会において、超過勤務の改善方法を検討し、全職員に提案していく。 ・定時退校の実施率を向上させることができるように、定時退校日を校務の状況に応じて設定し、柔軟な運用が可能となる体制を整える。

◇ 評価について 【自己評価】 4：目標達成 (90%以上) 3：ほぼ達成 (70%～90%) 2：もう少し (60%～70%) 1：できていない (60%未満)
【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである